



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No. 13

平成27年10月20日発行 発行責任者 校長 野口 泰秀

みんながよさを認めた学芸会

校長 野口 泰秀

10月10日(土)は、地域・保護者の皆様にご参会いただき、西春別小学校の学芸会が盛大に行なわれました。本当にありがとうございました。

学芸会は、1年生の元気な挨拶ではじまりました。器楽演奏は、低学年も中・高学年も大変上手でした。劇は、それぞれの学年のよさが出ていました。1・2年生の「しりとりのだいすきなおうさま」では、「次は、どんなしりとりの食べ物が出てくるのだろうか?」と会場全体をわくわくさせてくれました。一人一人の台詞もよく聞こえるようにはっきりと言えました。3・4年生の「若返りの水」では、子どもたち一人一人の持ち味が引き出されていました。台詞を大きな声で言うだけでなく、その言い方などもよくできていて、会場全体が笑顔と感心で包まれていました。5・6年生の「28年目の卒業式」では、『流石に高学年』と誰もが感じるような演技力を発揮してくれました。会場では感動して、思わずハンカチで目を押さえる保護者の皆様がたくさんおりました。どの劇も終わるたびにたくさんの拍手が沸き起こりました。全校で取り組んだ「江差もちつきばやし」は、37名で演じているとは思えないくらい、ステージが狭く感じました。最後の全校合唱では、一人一人の心が一つになった瞬間を見ることができました。

限られた時間の中での取組、台風や低気圧による2日間のお休みがあり、その完成がとても心配されました。しかし、当日は、お集まりいただいた皆様の鳴り止まない拍手、子どもたちへの温かい言葉にそのよさを十分に認めていただいた学芸会であることを実感いたしました。

学芸会終了後には、自分のお子さんの学年だけでなく、全ての学年の演目に賞賛をいただく声が聞かれました。また、多くの保護者の皆様が後片付けのお手伝いをしてくださいました。感謝申し上げます。

今後とも、西春別小学校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

家庭教育5つの条件③『人に物をあげる喜びを教えること』

小さいときから、人に物をあげる、プレゼントする習慣をつけることは奉仕の心を育てると言われています。しかし、それは、何か見返りを求めて物をあげることではありません。

たとえば、家族へ。お父さん、お母さん、兄弟、姉妹へ。特におじいちゃんやおばあちゃんのお誕生日などお祝いがある時にプレゼントをすることは最もよいと思います。

奉仕の心を育てることで、家族はもちろんのこと、これまで地域を築いてくれたお年寄りに感謝の気持ちをもって接することができたり、次世代の若者を育てたりすることにつながります。少子高齢化の時代となり、ますます社会奉仕ができる子を育てなければいけない世の中になってきています。



学芸会の一こま 学芸会では、たくさんのお名場面が見られました。そのいくつかを紹介します。



1年生の元気な声で開幕しました。



3～6年器楽 一気に会場が華やかに



1～2年器楽 合唱や演奏を協力して。



3・4年劇「若返りの水」



1・2年劇「しりとりのだいすきなおうさま」



全校民舞「江差もちつきばやし」



5・6年劇「28年目の卒業式」



全校合唱～全校児童37名が心一つにして、歌い上げました

漁協青年部の皆さんによる出前授業

19日(月)、野付と別海の漁協青年部の皆さんによる出前授業が3～5年生を対象として行われました。授業では、ビデオ映像を用いた定置網による鮭の漁についてや出荷されるまでの仕事の流れについてわかりやすく教えていただきました。後半には、青年部の皆さんに手伝っていただきながら、子どもたちも鮭を三枚におろす作業にチャレンジしました。使い慣れないまきりを使い、大きな鮭をおろしていく経験は、めったにできない貴重な経験だったことと思います。



講堂の天井改修工事が着工しました

12日から講堂の天井改修工事が始まりました。改修の準備では、講堂の床一面に保護の板が張り巡らされ、校舎との入り口には防音を兼ねた間仕切りが設置されました。工期は、およそ2ヶ月程度になる予定です。その間、ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力をお願いします。



合同音楽祭に向けて

11月に予定されている町の合同音楽祭に向け、合唱で行う手話の練習が始まりました。高学年が中心となり、先に覚えた手話を、歌に合わせて実際に見せながら、全校児童に教えています。

言葉とからだで表現する発表を目指して取り組んでいます。

